

# ナイジェリアの地域医療と問題点

日本プライマリ・ケア学会  
理事・広報委員長

板東 浩



Idem氏の病院▲

日本プライマリ・ケア(PC)学会は、世界家庭医学会(World Organization of Family Doctors:略称WONCA)の一員である。WONCA国際会議は数年ごとに世界各地で開催されるが、このたびアフリカWONCA国際会議がナイジェリアで開催された。筆者が参加した際、現地で地域医療を視察できたので、現状と問題点を報告したい。

## 1 ナイジェリアとWONCA

ナイジェリア連邦共和国は西アフリカに位置し、その人口は約1・4億人で、アフリカ最大である。国旗の緑は豊かな森林資源と農業を、白は平和と統一を象徴し、3つの区分けは主な3部族を表す。歴史的に英国の影響が強い。公用語は英語で、英語圏の文化や慣習の側面もみられる。近年は石油関連で経済的に発展しつつあるが、国内では大きな生活格差が認められる。

第8回国際WONCA Human Health Conferenceは、2008年2月20～23日に大都市カラバで開催された。テーマは「最前線の医療／自然および人間による災害から日常のケアまで」であり、副題は「地域におけるエイズの汎流行の衝撃」であった。

今回の開催に大きく貢献した実行委員がDr.Eruk S.Idemである。氏は、中心地から車で15分の住宅地域で開業しており、プライマリ・ケア医療の実際の姿を視察することができた。

## 2 クリニックの概要

Idem医師はMt.Zion Medical Centreを開設している(写真上)。スタッフは医師2人、ナース2人、事務員1人。構成は、外来待合室、診察室

2、family planning room 1、手術室1、入院ベッド16である。同地区は、生活困窮者が多い。実際に足を踏み入れることで付近の状況を把握でき、まさに地域医療が必要な地区であると感じた。

患者数は、1日に20～40人程度。多い病気には、上気道感染症やマラリア、消化器疾患などが挙げられる。



診察室に置かれていた、3年ごとの医科歯科のライセンス証明書。同国では歯科は医学と分離しておらず、一つの科として認識され、その医局で研鑽を積むという。

## 3 保険制度

同国では、医療保険制度がまだ確立されていない。同センターを訪れる患者について、保険を有している割合を尋ねてみた。おおむね、無保険者が60%、大企業の労働者で社会保険を有する者が20%、同国の政府関係者や公務員が20%程度という。

約2年前から、国が医療保険制度のプロジェクトを精力的に進めてきている。National Health Insurance

Scheme (NHS) と呼ばれ、現在はまだ実験的な段階だが、2年ぐらいでメドがつくという。

一例として、ある患者が上気道感染症でクリニックを受診した場合を尋ねてみた。平均的な診療を行い、3日間の抗菌薬としてエリスロマイシンを3日間、投薬したものと仮定。予想される必要経費は、登録手数料が1000ナイラ（通貨単位、1ナイラ [Naira, NGN] ≒ 約1円）、診療費が500ナイラ、薬剤費が1500ナイラ、合計3000ナイラ程度という。同国で中間層の平均月収が1〜2万円イラとされ、診療費用は相当高い。

## 4 Utility ratioの考慮

同センターの検査について尋ねると、X線撮影装置や超音波診断装置は置いていないと。日本での実情を説明すると、興味深いコメントが返ってきた。

あらゆる検査ができるのが理想ではある。しかし、X線撮影やエコーの機器を購入した場合、どうしても日常診療で高頻度に検査を行うことになる。また、患者の follow upでも頻用するだろう。これらは診断や経過観察に確かにプラスかもしれないが、定期的に用いて患者に経済的負担をかけるのはマイナスとも考えられる。この地域でプライマリ・ケア診療を行う際に、この

点に留意しなければならない。検査が必要なら、ただちに他施設に紹介する。つまり、これまで、utility ratioという尺度で考慮し、意図的に、これらの機器を導入しなかったという。ただし、患者からのニーズも考え、2年後の導入を考えている。

近年は、費用対効果分析 (cost-effectiveness analysis: CEA) が、医療だけではなく広い領域で使われつつある。日本の地域診療でも、考えるべき視点かもしれない。

## 5 迅速なエイズのチエック

同国が抱える大きな問題の一つが、エイズである。患者と面接し必要なら、迅速エイズ検査を行う。外注の検査センターに依頼し、検査結果が遅い場合、医師と患者の信頼関係を損なうことも。微妙な問題であるからこそ、ただちに結果を得る必要がある。迅速法を診療室内でただちに行う。本検査は、同国のPC医療で必須不可欠であり、患者と家族の将来を考慮すると、まず早急に対処しなければいけない。

PC医の仕事は、エイズの治療に關与することではなく、症例を発見して公立病院やGHAINNSに紹介することである。GHAINNSはNGO団体で、Global HIV/AIDS Initiative Nigeriaの略である。国内外の赤十字

組織や海外の大学や医学組織と協働関係を築いている。いままでに、エイズに対する服薬で6・8万人以上、HIVケアで150万人以上を救済してきた。今後、2009年までに新しい感染者を80万人予防するという目標に向け、活動を展開してきている。

## 6 家族全体を診ていく

同国では子どもの数が多く、家族計画の相談と指導もPC医の重要な仕事である。PC医は家族全員の面倒を長年診ていく。ちよつどその日も、母子の診察があり（写真下）、母親に子どもとの接し方を教えるポスターがとても印象的であった。

- 子どもへの愛情表現のコツ
- 毎日子どもと優しく接する
- 注意深く子どもの言い分を聞く
- 運動会や音楽の発表会に付き添う
- 子どもが好きな本と一緒に読む
- よい行いのたびに十分に褒める
- 子どもと一緒にゲームをして遊ぶ
- 尊敬する人について子どもと話す
- 子どもが辛いときには抱きしめる
- 乳児期の写真で好きな理由を話す
- 神を信じていることを話し合う

## 7 経済的側面

いずれの国でも、医療は経済状況に



大きく影響を受ける。医療関係者やタクシートの運転手などから、情報を得た。同国における1カ月の給料（米ドル）の目安は、タクシー運転手が200〜300ドル、医師が500〜1000ドル、政府の役人が800〜1200ドル、製油会社の役員は2000ドル以上という。ただし、このような人びとは非常に少数である。都会では、観光にかかわる仕事があるが、辺鄙な地域で道路わきに立ち並ぶ住居をみると、生活状況が推測される。

日本では、都会から津々浦々まで、生活や医療レベルにそれほど極端な差はないが、諸外国ではまったく異なるのが通常である。

今回は郊外のPC診療をかいまみる機会を得たが、今後、同国全体における医療の発展を期待していきたい。